地域に小規模保育園の認知度を高めるための取り組み

氏名：礒部仁美

内容

序論 ……2

第一章　新鎌ケ谷園の現状と問題……2

第一節　現状……2

第二節　問題点……3

第二章　新鎌ケ谷園の在籍人数を増やす取り組みとして．4

第一節　ニーズについての調査……4

第二節『ふれ AIAI エンジョイルーム』の実施……4

第三節　在籍園児数の変化と効果について……5

今後の課題……6

引用文献・参考文献……7

序論

近年、経済情勢の悪化等による共働き家庭の増加、女性の社会進出、多様な勤務形態やひとり親家庭の増加等、社会の変化に伴い、子ども、子育てをめぐる環境は大きく変化しています。また、子ども・子育てを巡る環境の変化により、児童虐待問題、子どもの貧困問題、待機児童問題、過疎地域における少子化の進行などさまざまな課題に対応する保育政策が求められるようになり、保育制度が変革を迫られることとなっています。

そのような中、2013 年に内閣府・文部科学省・厚生労働省は「子ども・子育て関連３法」[1)]の中で、「子育てをめぐる現状と課題」について、子ども・子育て支援が質・量ともに不足していること、深刻な待機児童の問題、質の高い幼児期の学校教育振興の重要性等を挙げています。そして、この現状と課題に対しての解決方法として、2015 年 4 月から「子ども子育て支援新制度」が開始されることとなりました。なお、国は深刻な待機児童問題に対応するため、2015 年の本格実施に先立ち、2013 年から「待機児童加速化プラン」をスタートさせています。

子ども・子育て支援新制度では、教育・保育施設を対象とする施設型給付・委託費に加え、市町村による認可事業(地域型事業)として児童福祉法に位置付けた上で、「小規模保育事業(利用定員 6 人以上 19 人以下)」「家庭的保育(利用定員 5 人以下)」「居宅訪問型保育」「事業所内保育」を地域型保育給付の対象とし、多様な施設や事業の中から利用者が選択できる仕組みとすることとしています。その中でも小規模保育事業は、事業者を市町村、民間事業者等とし、比較的小規模で家庭的保育事業に近い雰囲気の中、きめ細やかな保育を実施することとされています。

鎌ケ谷市は 2017 年度から、市民の方々に親しんでもらえるよう、小規模保育事業の愛称を【駅近アットホーム】として、駅周辺に小規模保育園を設置する事業を行っています。待機児童を減らすための取り組みを昨年度から始め、新鎌ヶ谷駅に小規模保育園を 2018 年度３園設立させ、合計 9 園の設立となりました。来年度の 2019 年度は更に２園設立予定という、市をあげて小規模保育園を待機児童問題の一角として進めていく方針が見えています。こういった市の思いや現状を知っていく中で、当園も地域に貢献し地域に根付くために、保育所運営を積極的に進めたいと考えました。

第一章　新鎌ケ谷園の現状と問題

第一節　現状

2018 年 4 月「あい・あい保育園 新鎌ケ谷園」が開園しました。しかし 4 月

スタートの在籍園児数は２歳児２名、１歳児３名、計５名でした。まだ開園したばかりだからと様子を見ていき、5 月に１歳児３名入園で計８名となり、この調子で毎月増えると期待するも、6 月は入園０名でした。そして、7 月に初めての０歳児が２名入園し、ようやく在籍園児数が 10 名となりました。鎌ケ谷市のホームページで、市内の小規模保育園の在籍園児数を調べたところ、7 月の時点で当園の在籍園児数が一番少なく、4 月に開園したばかりの他園と比べても少ない園児数という現状を知りました。登園の４月開園時の職員の人員が保育士８名、調理員１名の配置であり、スタートの時点で保育士の数の方が多く、保育士が余ってしまう状況でした。研修に出たり施設内の研修を行いながら手が余らないように努力をしても、毎日のクラス配置、業務に戸惑う日々でした。

第二節　問題点

園児募集をマーケティングの観点で考察するために、まずマーケティングについて整理しました。石田[2)]は「マーケティングとは、企業および他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、公正な競争を通じて行う市場創造のための総合活動である」と言っています。つまり、マーケティングの役割は、『売る仕組みではなく』『売れる仕組み』を構築することが大切なのだと知ることができました。ドラッカー[3)]は市場調査をすること以上に、日常の『現場にでて』『現場に接し』『現実を知る』三現主義の重要性を述べています。そして、マーケティングの三現主義を園児募集におきかえますと、園児集客に向けての取り組みとして求められていることがおのずとして見えてきたように思いました。現場＝保護者が今、何を求めて保育園を選んでいるのか、保護者のニーズの現状認識が最も大切だとわかりました。

地域として取り組んでいる【駅近アットホーム】事業、市をあげて小規模保育園を待機児童問題の一角として進めている市の思いや現状を知っていく中で、はたして【あい・あい保育園新鎌ケ谷園】は求められているニーズにこたえることができているかと考えました。入園申し込みがこない現状がどうしてなのか、現場＝保護者が今、何を求めて保育園を選んでいるのか保護者のニーズの現状認識ができていなかったことが一番の問題点だと考えました。

そこでまず、在園児の保護者に当園の印象についてアンケートをとりました。保護者は園のサービスについてとても満足してくれている結果が得られ、入園し施設を知ってくれさえすればという自信にもつながる高評価でした。施設を見学に来る地域の保護者の方も来園して満足だったと高評価を得ており、施設を認識してもらえれば必ずニーズにこたえられるのにと、もどかしい思いが強くなりました。そして施設の存在をアピールし地域にあい・あい保育園の良さを

知ってもらうことができれば当園に足を運んでもらうきっかけにもなり、入園申し込みにつながるのではないかと考えました。

第二章　新鎌ケ谷園の在籍人数を増やす取り組みとして

第一節　ニーズについての聞き取り

地域の保育園利用者が求めるニーズについて知るために、鎌ケ谷市の保育課に出向き話を伺いました。

① 施設がきれいであること(設備が整っている)
② 通勤に便利であること
③ 保育士の専門性の質の高いこと
④ 卒園のあとの連携施設園があること。

この4点を重要視している方が多いとわかりました。当園に照らし合わせますと①の施設に関しては、我が家のリビングで過ごしているかのように落ち着いた家具材の色調、安全性も高く考えられていて清潔感があると、見学者にはいつも高い評価を受けています。②の通勤に便利であることについては、新鎌ケ谷駅から徒歩5分。市役所、総合病院が近隣にあり、ショッピングモールも近いことから利便性が高い位置にあります。③の保育士の専門性については小規模保育の特性を生かして乳児保育の専門的知識を高めるための努力をしています。④の連携施設園に関しても必要性を感じ、鎌ケ谷市にも力をかりながら、2018年7月に近隣の幼稚園と協定を結ぶことができました。これによって利用者の方の、2歳児の卒園後の不安も緩和できたこと、見学に見える外部の方にも卒園後の話ができることは、大きな自信となりました。

園に足を運んでくださる見学者のほとんどの方が口を揃えて述べられるのが、「施設の存在自体を知ることができない」「市の情報だけで調べて訪れたら想像していたよりずっといい」など、開園したばかりといえど、近隣で認識されておらずそのことで入園応募もないという現象が起こっているのならば、先ずは当園について興味を持ってもらえるような特色ある取り組みはないか、行ってみたいと思わせるきっかけはないのかと考えました。

第二節『ふれAIAIエンジョイルーム』の実施

見学者の方が園に訪れてくれて施設を見ていただけたら、良さを伝えることができる。施設の良さをわかってもらった上に保育の質の良さも伝えることができたらと考えました。やはり地域の方に現場の保育を体感してもらえることが良さを知ってもらう近道と考え、施設に地域の方を招き交流するという企画を考えました。名称を『ふれAIAIエンジョイルーム』とし、未就園児を対象

に、園に招き、保育士の楽しい保育を体感し、在園児と触れ合いながら過ごします。3か月に1回のペースで行うことにし、時間は9:45～10:45の1時間の中で交流、子育ての相談(子育て支援)を目的にし、施設の良さを知ってもらおうと考えました。鎌ケ谷市に許可を取り、チラシを保育課や児童館の窓口に置いて協力の依頼をしました。

第一回の『ふれAIAIエンジョイルーム』は7月18日に実施しました。予約の時点で5組だったものの、当日の参加者は3組でした。保育士さんのパネルシアターと大型絵本の読み聞かせを楽しんだり、歌や手遊びを一緒に行うなどアットホームな雰囲気で楽しく過ごせました。感想のアンケートには「楽しかった・また訪れたい」などの感想をいただきました。しかし見てばかりの参加の少ない内容と感じ、次回は“お祭り”をテーマにし、参加型の内容に見直しました。

第二回の『ふれAIAIエンジョイルーム』は9月21日に実施しました。予約が10組、当日の参加者は8組で、1回目より多い参加となりました。感想のアンケートには前回よりも記入が増え、喜んでもらえたと実感できました。中でも、来場した親御さん同士が子育ての情報交換の会話をしている姿を見たり、保育士さんに子育ての相談をする姿を見て、入園前の環境の中、“場”を設けられたことは子育て支援につながることでもあると考えました。

第三回の『ふれAIAIエンジョイルーム』は12月13日にクリスマス会という内容で行いました。当日の参加者は前回と同じ8組でした。クリスマスツリーを親子で製作、クリスマスのパネルシアターを見たり、クリスマスにちなんだ手遊び、歌など在園児とふれあいながら、充実した時間を過ごしていただけたと思います。

第三節　在籍園児数の変化と効果について

園児を増やしたくて企画した『ふれAIAIエンジョイルーム』は1回目の企画の後、口コミもあったのか、リピーター1組を加えて予約が10組となり、2回目の企画に参加した1組の方が当園を気に入ってくれて入園を希望され、10月より入園が決まりました。それに加え、『ふれAIAIエンジョイルーム』に参加した方の口コミから当園でパート保育士として働きたいと応募があり、11月より勤務していただいています。このように入園につながる園児数だけでなく職員確保にもつながったことは予想をはるかに超える効果と考えられます。施設見学者も7月から来園数が増え、月に平均8組、9月が一番多くて12組にもなりました。そこからは、8月より毎月のように入園数が増え、現在では、0歳児7名、1歳児8名、2歳児2名、合計17名と満所に近い園児数を在籍することができました。

2018 年度の入園申し込みについて２月上旬、鎌ケ谷市の保育窓口の方に内訳を聞いてみると、これまでの年齢別申込数のみ情報を得ることができました。1 年間の申し込み数総数、0 歳児が 22 名、１歳児 12 名、2 歳児が 1 名でした。入園決定者は 0 歳児 7 名、1 歳児 5 名でした。この数は鎌ケ谷市内の小規模保育園の中で最も多かったと言っていただきました。更に、申込み数が増えた時期についても『ふれ AIAI エンジョイルーム』を実施した 7 月から徐々に増え始め、12 月には一番多い数の申し込みがあったことをふまえると、『ふれ AIAI エンジョイルーム』の実施の効果があったのではないかと言葉をいただきました。開園当初は入園申し込みが少なく、近隣から認識してもらえていないのではないかという不安だった思いが払拭され、やっと施設の良さを知ってもらえたという達成感が生まれました。そして当園の職員においても、この企画を考えたり地域の方を招いての特別な保育を経験することが日々の保育の意欲を高め、向上心につながったと認識しています。

今後の課題

保育所保育指針[4)]では第４章、子育て支援《３、地域の保護者等に対する子育て支援》⑴地域に開かれた子育て支援と示されているように子育て支援に地域との連携は必須と考えます。保育所の地域における子育て支援に関る活動が、関係機関との連携や協働、子育て支援に関する地域の様々な人材の積極的な活用の下で展開されることで、子どもの健全育成や子育て家庭の養育力の向上、親子をはじめとする様々な人間関係づくりに寄与し、地域社会の活性化へとつながっていくことが期待されます。保護者や地域の人々と子育ての知識を交換し、子育ての文化や子どもを大切にする価値観等を共に紡ぎだしていくことも保育所の大切な役割だと解説しています。

これらをふまえての更なる取り組みとして、今年度は『ふれ AIAI エンジョイルーム』を園の行事に組み込み、在園児の保護者も招くことにしました。地域の方々、保護者、保育園が一体となって子育てに向き合える場を提供していきたいと思います。そして参加者に、より満足していただける質の高い内容にするためにも保育者の知識や技能を生かすことが求められると考えます。外部研修、園内研修などへの積極的な取り組みを行うなど、保育の専門性を高めていくことを課題とし、今後も地域に開かれた子育て支援を意欲的に行っていくとともに、これまでの取り組みを今後は、他の職員が積極的に行えるような仕組みづくりをし遂行していきたいと思います。更には他園にもこの取り組みが浸透できるよう広めていくことが大切だと考え、今後もより良い企画を追求し行っていきたいと思います。

引用文献

⑴ 「子ども子育て関連３法 」『内閣府、文部科学省』
https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomo3houan/index.html
http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/detail/1325220.htm（閲覧日 2018/11/20）

⑵ 石田秀朗（2009）「園児募集におけるモバイルマーケティングの可能性 」『奈良文化女子短期大学紀要』pp. 19-28

⑶ 藤屋信二（2009）『 図解で学ぶドラッカー入門』日本能率協会マネジメントセンター、pp. 1-48

⑷ 厚生労働省（2018） 『保育所保育指針解説』 フレーベル館、pp. 19－28

参考文献

長嶋和代・石丸るみ・前原寛・鈴木彬子・山内陽子（2018）『日常の保育を基盤とした子育て支援―子どもの最善の利益を得るために』中央精版印刷株式会社

武田信子（2018）『保育者のための子育て支援ガイドブック 専門性を活かした保護者へのサポート』中央法規出版株式会社

無藤隆・汐見稔幸（2017）『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 はやわかり BOOK』学陽書房

新川朋子（2016）「小規模保育事業の変遷と課題 子ども・子育て支援新制度との関連から」 『大阪千代田短期大学紀要』、第 45 号、pp. 25-34

新川朋子・中山徹（2018）「子ども子育て支援新制度の小規模保育における先取り事業の実態調査」 『太成学院大学紀要』20 巻、pp. 85-92